



2022年 7月 8日
第 2 号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横浜地本第27回定期大会

スローガン

1. 21春闘敗北総括からたたかい抜いた22春闘の教訓を自らのものとし、労働者としての自覚を持ち、経営姿勢に立ち向かい、年末手当や23春闘の議論を深めよう！
2. 命と安全を最大の価値基軸に施策に向き合い、年功賃金の廃止反対！手当・定昇カットなど生涯賃金の減額反対！更なる成果主義型への変更を許さず、社会情勢や会社の狙いを見抜き、労働者としての権利を守り抜くため、JR東労組への結集を訴えよう！
3. JR東労組結成35年！「えん罪・JR浦和電車区事件」を美世志会と共にたたかい抜いた20年！「抵抗とヒューマニズム」を基底に、いかなるテロにも戦争にも反対し、憲法9条を守り戦争のない平和で 安心して暮らせる社会の実現をめざそう！

大会宣言

大会宣言

JR東労組横浜地本は7月7日、かながわ労働プラザにて第27回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

21春闘の敗北総括からたたかいをつくり出した22春闘は、組合員の「生活実感」や「労働実感」を否定する経営姿勢に立ち向かい、「あきらめ感」や「仕方なさ」といった社内世論を突破するたたかいであった。地本や支部、各職場で開催した「春闘学習会」では、ベースアップと定期昇給の違いや逆風の中でも労働者として要求を掲げる意義などを職場のリーダーと共に学習を積み重ね議論し「自分の要求」として高め合ってきた。また、春闘の灯を消さないためにJR総連加盟各単組が連携し統一要求・統一闘争でたたかい抜いた。そして、2022年度夏季手当のたたかいでは、過去最高の働き度に対し低額水準の賃金に落とし込めようとする経営姿勢を見抜き、「騙されない」組合員をつくり出してきた。その力の根源は21春闘の総括を自分のものとして新たな展望を切り拓けたことである。このたたかいの教訓を組織強化・拡大に結び付け、「年末手当」「23春闘」の要求実現に高めていこう！

一方、過半数代表選出の最中、鎌倉車両センターをはじめとした職場において、JR東労組に対し嫌悪感を剥き出しにした、不当労働行為・ハラスメントが明らかになり、職場からは是正していくたたかいをつくり出してきた。横浜地本は組合員に寄り添い、組合員と共に具体的事実を掴み、不当労働行為・ハラスメントの撲滅に向けてたたかいを推し進めていく。

「新たなジョブローテーション」施策では、組合員自らが描いたキャリアプランに反する、社員・家族の幸福とは程遠い人事運用が行われている。組合員から簡易苦情申告が連続発生していることを会社は重く受け止めるべきである。特に小田原支部では三役を狙い撃ちにした人事運用が如実に現れている。労使で確認した運用基準を反故にすることは絶対に許してはならない。

「JR発足以来最大の変革」という「組織の再編」に基づき、統括センター・営業統括センター化が本格化している。この施策の荒波に抗していくために、組合員の声をもとにすべての施策の点検・検証を行い、「安全・健康・ゆとり」と「働きがい」ある職場を実現させよう。

JR東労組は今年、結成35年を迎えた。そして同時に「えん罪・浦和電車区事件」の大弾圧から20年目の節目の年となる。その歴史は組織破壊攻撃に抗するたたかいでもあり、平和・人権・民主主義を守り抜くたたかいでもあった。JR東労組横浜地本は「抵抗とヒューマニズム」を基底とし、これまで沖縄平和研修や旅のプレゼント、今年開催した東日本大震災被災地現地踏査研修を通じ労働者の感性を磨いてきた。ロシアによるウクライナ侵襲から4ヶ月が経過するが、JR東労組はテロにも戦争にも反対の立場を明確にし、ウクライナ避難民支援カンパを取り組んできた。

日本政府はウクライナ情勢に乗じて改憲に向けた動きを加速させている。「核共有」「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費の倍増」など、戦争をする国にNOを突きつけなければならない。同じ過ちを繰り返さず、生活と命を守るため今参議院議員選挙で私たちと意思を同じくする推薦候補者の必勝に向けて奮闘しよう！

今、組合員一人ひとりが、離脱者や未加入者をJR東労組に結集させる実践が問われている。労働者の労働条件を守るためには労働組合が必要不可欠である。社友会では労働者の利益を守ることができないことは明白である。自らの将来展望と確固たる「自分にとっての東労組」を確立し、JR東労組の組合員であることを実感できる当たり前の労働組合運動を推し進め、組織強化・拡大を勝ち取ろう。そして「新生JR東労組運動宣言」を実践し、全組合員で運動をつくり出し、人間らしく声高にJR東労組の未来を切り拓こうではないか！

以上、宣言する。

2022年7月7日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部
第27回定期大会



満場一致で採決！！

やっぱり労働組合が必要だ！ 東労組の仲間と共に歩もう！

